

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

年 月 日

〒 110-0016

所在地 東京都台東区台東三丁目2番5号大林ビル2F

評価機関名 有限会社エテルノ

認証評価機関番号

機構 06 - 169

電話番号 03-5812-0840

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

福祉サービス種別	認可保育所		
評価対象事業所名称	大田区立富士見橋保育園		
事業所連絡先	〒	143-0015	
	所在地	東京都大田区大森西3-2-2-101	
	TEL	03-3765-4540	
契約日	2025年	4月	1日
利用者調査票配付日(実施日)	2025年	6月	23日
利用者調査結果報告日	2025年	8月	29日
自己評価の調査票配付日	2025年	6月	23日
自己評価結果報告日	2025年	8月	29日
訪問調査日	2025年	9月	3日
評価合議日	2025年	9月	17日
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	評価実施にあたり、評点基準や根拠書類の準備について、わかりやすく解説した独自マニュアルを用いて説明を行っている。分析シートは記入の手引きを用意し、効果的に情報が整理できるよう工夫を行っている。確認根拠資料は、訪問調査の概ね4週間前までに評価機関への提出を依頼し、根拠の事前確認を行ってから訪問調査を実施している。訪問調査は事業所の課題や良い点を中心に把握することを重点に置いて実施している。合議は、訪問調査終了後に速やかに実施している。		

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

年 月 日

1	<p><b>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</b></p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>（理念） 1) 私たちは、こどもの人権や主体性を尊重し、最善の幸福のため、保護者や地域社会と力を合わせ、児童の福祉を積極的に進めていきます。 2) 家庭・地域の子育て力を高め、「一人一人の個性や人格を大切に、感性豊かで意欲的なこども」の育成を目指しています。</p> <p>（目標） ★自分を好きな子 ★友達を好きな子</p> <p>（ビジョン） ～笑顔いっぱいの保育園をめざして～ ・大人同士が協力し合える信頼関係の下、こどもと共に成長し合う仲間関係を築きながら、日々変わる社会情勢・子育て事情・家庭事情を踏まえた保育と保護者支援を行い、安全で安心できる保育園を目指します。</p>
2	<p><b>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</b></p> <p>（1）職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・常に「こどもにとってどうか？」「保護者にとってどうか？」ということに視点を置き、保育環境を整え、個々にあった配慮や援助を行いながら保育にあたる。</li> <li>・児童憲章、こどもの権利条約などを学び、こどもへの言動には十分配慮しながら、個々を大事にし自己肯定感が育つ保育を心がける。</li> <li>・ワークライフバランスを大事にしながら保育中は「最大限の力」を発揮する。常にリフレッシュを心がけ、心に余裕を持ちながら保育にあたり仕事を進めていく。</li> </ul> <p>（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）</p> <p>より良い保育・より良い職場を目指して</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の保育を振り返り、そして互いの保育を見て学ぶ姿勢を持つ。一日一回は、保育への思いを語り合う。</li> <li>・保育で気が付いたことは、先輩、後輩関係なく声に出して言い合える職場を目指す。（良いチームワークが良い保育に繋がる）</li> <li>・他クラスの保育の悩みを共に考え、アイデアを出し合い、園全体の問題として捉え全職員で解決策を考えていく。</li> <li>・研修や自己研鑽に励み、日々変わる社会情勢・子育て事情・家庭事情を踏まえた上で保育や保護者支援ができるようにする。</li> </ul>

調査対象	保育園に通っている園児66世帯74人に対して調査を行った。同一保育園に2名以上の園児を預けている場合には、年齢の一番低い園児に対して回答して頂いた。		
調査方法	保護者にはウェブ調査回答用URLおよびQRコード、IDを配付して、回答をウェブ上で収集した。外国語世帯のみ調査票の直接郵送にて回収した。結果は選択式・自由記述式ともに園に報告し、自由意見には回答者の匿名性に配慮した処理を適宜行った。		
利用者総数	74		
利用者家族総数(世帯)	66		
共通評価項目による調査対象者数	66		
共通評価項目による調査の有効回答者数	51		
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	77.3		

**利用者調査全体のコメント**

総合的な感想として園に対する満足度は、「大変満足」49.0%、「満足」49.0%の計98.0%であった。自由意見では、「先生たちの子どもへの接し方や保護者への対応がとても親切。」「園庭やホールのある環境が良い。」「先生たちの連携が取れている。」など、子どもや保護者への配慮など職員の対応、日常の保育などに対する感謝の声が寄せられている。向上または検討を望む意見としては、保護者とのコミュニケーションに関することや保育内容、職員の子どもや保護者への対応、設備に関する事など、回答者個々の考え方や気になる点が寄せられている。設問別では、「心身の発達」「興味や関心」「食事」「自然や社会との関わり」「保育時間の変更」「安全対策」「行事日程」「信頼関係」「整理整頓」「接遇」「病気やけが」「トラブル対応」「気持ちの尊重」「プライバシーの保護」「保育内容の説明」「不満や要望の対応」「苦情窓口」などの17問中17問が80%以上の支持を得ている。

**利用者調査結果**

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	51	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、「体を使う活動が豊富で元よく成長しているのがわかります」「自分で考える力を付けさせてくれる」という声が寄せられていた。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	49	2	0	0
「はい」の回答は96.1%、「どちらともいえない」の回答は3.9%であった。 自由意見では、「食べ物を自分たちで育てて食べるのがすごく良い経験だと思います」「友だちと協力したり競い合ったりできる環境」という声が寄せられていた。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	49	2	0	0
「はい」の回答は96.1%、「どちらともいえない」の回答は3.9%であった。 自由意見では、「年齢や成長に応じた素材や味付けのメニューで満足しています」「バランスの良い手の込んだ料理を毎日作っていただきありがたいです」という声が寄せられていた。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	45	3	3	0
「はい」の回答は88.2%、「どちらともいえない」の回答は5.9%、「いいえ」の回答は5.9%であった。 自由意見では、「昆虫や野菜を育てたり観察したりする機会も大切にして下さっています」という声が寄せられていた。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	43	8	0	0
「はい」の回答は84.3%、「どちらともいえない」の回答は15.7%であった。 自由意見では、「突然の予定変更でも快く受け入れて下さるのでとても助かっています」という声が寄せられていた。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	44	5	2	0
「はい」の回答は86.3%、「どちらともいえない」の回答は9.8%、「いいえ」の回答は3.9%であった。 自由意見では、「避難訓練なども定期的に行っていて万が一の際にも心強いです」「毎日の活動や送り迎えの際も、先生たちが安全面に配慮して下さっているのを感じます」という声が寄せられていた。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	49	1	1	0
「はい」の回答は96.1%、「どちらともいえない」の回答は2.0%、「いいえ」の回答は2.0%であった。 自由意見では、「事前にお知らせいただけるので仕事の調整がしやすく助かっています」という声が寄せられていた。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	45	4	2	0
「はい」の回答は88.2%、「どちらともいえない」の回答は7.8%、「いいえ」の回答は3.9%であった。 自由意見では、「先生たちがいつも温かく接して下さるので、安心して相談できています」という声が寄せられていた。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	49	2	0	0
「はい」の回答は96.1%、「どちらともいえない」の回答は3.9%であった。 自由意見では、「玩具や設備などがきちんと管理されていて清潔で心地よい空間だと感じます」という声が寄せられていた。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	50	1	0	0
「はい」の回答は98.0%、「どちらともいえない」の回答は2.0%であった。 自由意見では、「言葉遣いも服装も清潔感があり好印象を受けています」という声が寄せられていた。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	48	3	0	0
「はい」の回答は94.1%、「どちらともいえない」の回答は5.9%であった。 自由意見では、「質問の経験は少ないが些細な怪我でも報告があるので信頼はある」という声が寄せられていた。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	42	8	0	1
「はい」の回答は82.4%、「どちらともいえない」の回答は15.7%、「無回答・非該当」の回答は2.0%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	48	2	0	1
「はい」の回答は94.1%、「どちらともいえない」の回答は3.9%、「無回答・非該当」の回答は2.0%であった。 自由意見では、「家庭と保育園での様子の違いがある中で子どもの成長や気持ちを理解して下さっています」という声が寄せられていた。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	48	3	0	0
「はい」の回答は94.1%、「どちらともいえない」の回答は5.9%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	46	3	1	1
「はい」の回答は90.2%、「どちらともいえない」の回答は5.9%、「いいえ」の回答は2.0%、「無回答・非該当」の回答は2.0%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	46	3	0	2
「はい」の回答は90.2%、「どちらともいえない」の回答は5.9%、「無回答・非該当」の回答は3.9%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	44	6	1	0
「はい」の回答は86.3%、「どちらともいえない」の回答は11.8%、「いいえ」の回答は2.0%であった。 自由意見では、「ポスターや区のお知らせや相談場所の紹介をしてくれたりします」という声が寄せられていた。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目		
1	カテゴリ1		
	リーダーシップと意思決定		
	サブカテゴリ1(1-1)		
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	○非該当
評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	○非該当	
●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当	
●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当	
カテゴリ1の講評			
<p>園の理念や方針を明示して職員や保護者の理解を深めている</p> <p>年度当初の職員会議では、「こころを育てる大田の保育」「大田区安全保育マニュアル」「富士見橋保育園 職務」の読み合わせを行い、全職員が共通理解のもと園運営がすすめられるように取り組んでいる。入園オリエンテーション及び年度当初の保護者会では、保護者に向けて保育の基本理念や保育の取組についてパワーポイントを用いて丁寧に説明している。年間指導計画作成の際には、各クラスの「スローガン」を設定し、保育の中で大切にしたいこととして保護者会で説明している。</p> <p>経営層は組織として目指すことを伝えてリーダーシップを発揮している</p> <p>園長は、理念や基本方針に基づく取組を全職員で進めるにあたり、園長としての方向性をしっかりと示し、職員に不安や迷いがないように自らの役割や責任を職員にわかりやすく伝えている。また、日々の保育、各クラス・非常勤職員の打合せの中では園長としての役割に基づき、助言指導を行っている。園は、業務の円滑化を図るために「報告・連絡・相談」を徹底し、問題が起きた時にはすぐに対処できる体制を構築している。</p> <p>会議体系が整えられ、会議内容は職員間で共有し、保護者へも的確に伝えられている</p> <p>重要な案件の検討や決定の手順については、決定事項の流れに沿って決定している。重要案件の最高決定機関は、「職員会議」とするが、職員会議に準ずる決定機関として「リーダー会」を設けている。問題や課題が生じた時にはすぐに各クラスリーダーを集結し、課題に向けての検討をし、職員に周知している。問題には敏速に対応することを心掛けスピードとコンプライアンスの両立が図られている。保護者に伝えるためにお知らせを園内掲示した際には、お知らせ文を読んだらチェックをもらい、大切なことはしっかり伝える工夫をしている。</p>			

カテゴリー2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 <b>6/6</b>
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(○○○○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 <b>5/5</b>
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(○○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
<p><b>アンケートや行事、面談、会議などで、保護者、職員の意向を確認している</b></p> <p>利用者の意向を確認するために、保護者会やお楽しみ会、運動会等の行事の後はアンケートをとりの保護者からニーズを把握している。直近で把握したニーズから保育参加は期間を設定せず、年間を通しいつでも受け入れをし、子どもの様子、保育園での様子を知ってもらう機会としている。職員の意向については、職員面談や職員会議などのほか、「話しかけやすい」「話を聞いてくれそう」と感じられるような雰囲気のもと、一人一人の職員と日頃からコミュニケーションをとり、その内容から園運営にどのように反映していくかを検討している。</p> <p><b>地域の福祉ニーズを把握するため、近隣の関係機関と連携し情報収集に努めている</b></p> <p>地域の福祉の現状について情報を収集するために、地区別園長会議や地域保育施設会議に参加し、情報交換を行うなどしてニーズを把握している。地域保育施設会議は、年2回参加し、区立保育園の他、私立認証保育園、小規模保育所、認可外保育施設の園長と情報交換やテーマを決めての話し合いを行っている。小学校校長や保健師、子ども家庭支援センターとの会議もあり、直近では入学までに育てておきたいことを校長先生に聞く機会があり、保護者会で話をして保護者に共有している。</p> <p><b>公立保育園としてのさまざまな課題を捉えて計画を策定し、事業を推進している</b></p> <p>区の理念や計画等を踏まえ、園の現状に沿った中期計画書を策定し、中期計画を踏まえて具体的な単年度計画を策定している。策定した計画を推進するためプロジェクトと係を設け、それぞれが役割分担を担い、計画・実施・振り返りを行い、取組と実施状況、反省と残された課題を検討している。また、策定された計画を遂行するため、定められた予算の中で課題解決に向けた予算編成が行われている。計画と予算を連動させることで、理念の実現に向けた組織的かつ計画的な園運営が実践されている。</p>		

3 カテゴリー3		
経営における社会的責任		
サブカテゴリ1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリ2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
サブカテゴリ3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

### カテゴリー3の講評

**福祉サービスを提供する者の責務として、規範・倫理などの理解と遵守に取り組んでいる**

守るべき法、規範、倫理などについては区の様々な規則が制定されており、富士見橋保育園服務などを配布し、年度当初の職員会議で周知している。また、社会人として守ること、大田区の職員として守るべきことを職員会議などで折に触れて話し、職員の規範意識を高めている。年度当初に個人情報の管理及び取り扱いについて確認し、職員承諾書に一人ずつサインをもらっている。区の職員・専門職として守るべき内容について、年度当初の確認のみならず、園内研修・保育の自己評価の活用等を通じて職員が深く理解できるように努めている。

**苦情解決や虐待に対しては、きめ細かい対応や細心の注意を払うように努めている**

苦情対応の仕組みについては、苦情解決責任者や、受け付け担当者、オンブズマン制度などを重要事項説明書に掲載し、入園前のオリエンテーション及び保護者会で説明している。利用者である子どもたちの権利や尊厳を守るために、組織全体で虐待防止対策に取り組んでいる。年度当初から保育方針や大切にすべき「子どもの権利」に関する確認を行い、セルフチェックリストや冊子を活用して共通理解を深めている。何かあった際には、虐待対応マニュアルに沿って関連機関とすぐに連絡をとり、連携ができる体制を整えている。

**保育の専門性を活かして地域交流及び地域支援の充実に取り組んでいる**

保育の専門性を活かして、育児相談、緊急一時保育、園庭開放事業、育児応援券事業をしている。地域向け子育て支援だより「げんきなこ」を発行し配布及び掲示をしている。子育て支援の充実に向け、プロジェクトメンバーが中心となり、ふじみっこパークの開催などを実施し、在宅子育て世帯への支援を行っている。防災対策の取組として起震車体験や煙体験、CPR訓練、通報訓練を自園で行う際には、地域の保育施設にも声をかけ、連携強化にも繋げている。

4 カテゴリー4		
リスクマネジメント		
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリー4の講評		
<p>想定されるリスクに対してマニュアルなどを整備し、対策を講じている</p> <p>園は、災害などで起こりうる可能性を考え、各リスクへの対応・対策マニュアルを整備し、避難訓練やCPR訓練、通報訓練、防犯訓練などに取り組んでいる。大規模災害に備え、子どもと職員の命を守り、発災後も保育園運営の継続を図ることを目的として地域の特性を踏まえたBCPを作成している。大規模災害時を想定した福祉避難所開設に向けての準備が整えられ、職員はマニュアルに沿って開設訓練を行っている。</p> <p>避難訓練や防災訓練を行い、有事に実効性のあるリスクマネジメントを実施している</p> <p>事故発生時には、事故報告書を作成し、状況、原因、対策を記録・分析することで、再発防止に努めている。感染症対策についても、感染症に関する情報を掲示し、注意喚起を行っている。避難訓練・CPR訓練・AED訓練・アレルギー対応訓練などは、非常勤職員も含む全職員が参加し、園全体でリスクに対する意識を高め、安全・安心な保育環境の提供に努めている。職員が行った訓練や研修の様子は写真に撮り、ドキュメンテーションとして保護者にも知らせている。</p> <p>園で取り扱う情報は、規程・ルールを定め、規則に沿って管理している</p> <p>園で取り扱う情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、年度当初の職員会議で確認している。子どもや保護者の情報は各ファイルに整理し、鍵のかかる書庫で保管している。パソコンなどの端末使用時の注意事項、情報機器の取り扱いについては繰り返し伝え、事故防止に繋げている。職員、保護者、実習生に至るまで、園に関わる全ての人を対象に「プライバシーポリシー」を用いて利用目的を明示し、署名を得ることで個人情報保護の重要性についての理解と遵守を徹底している。</p>		

5 職員と組織の能力向上			12/12
サブカテゴリ-1(5-1)			
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている			評点(〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している			評点(〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している		○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる			評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる			評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		○非該当
サブカテゴリ-2(5-2)			
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している		○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている		○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる		○非該当

#### カテゴリ5の講評

##### 組織の能力向上を図るためのシステムを整え、適材適所の配置が進められている

保育園の職員の採用については、区の採用・配置システムのもとで安定した人員確保を実施している。大田区の保育士希望者に向け、区は園見学や説明会を実施し、区立保育園の役割や保育園で働く楽しさややりがいを伝えている。「大田区保育園人材育成指針」に基づき人材育成基本方針及び人事評価制度が定められ、在職年数や役職ごとに保育士に求められる資質等が明記されており、職員に書面で周知している。職員の配置・異動は、各職員のキャリアデザイン等に応じた希望を踏まえて行っている。

##### 職員の意向把握を行い、研修計画を作成し能力の向上に取り組んでいる

大田区人材育成方針により人材育成評価制度が定められており、園長と職員との個別面談を年2回実施し、キャリアデザインシートを活用しながら職員自身の将来像と必要な経験・研修を共有している。園内研修は、様々な課題に対応できるように、非常勤保育士を含め全職員で取り組むために日程や時間、回数の配慮をしている。研修で得た知識や技術は、個人のものにとどまらず、研修で学びを得たこと、職員間で共有、共通認識したいことについて記録し、受講した感想とともに、職員会議内で報告している。

##### 園内の様々な活動を効果的に働かせ、学びとチームワークの促進に取り組んでいる

職員間のチームワークは保育に大きく影響する考えのもと、良好な人間関係作りのために、日頃から職員と良好な関係を築き、どんなことでも報告や相談ができる雰囲気作りを心掛けている。また、園内研修PTを中心に職員間で事例検討や保育につながる話し合いの時間を設けている。当園は、チーム力を強化していくために、クラスリーダーやフリー保育士を毎年違う配置にし、様々な立場から仕事を進めていく中で一人一人のスキルアップを目指している。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

公開保育の取り組みを重要課題として捉え、昨年度の重点目標に、「自園の保育の質の向上を目指す」を掲げた。昨年度の重点施策として、自ら遊びたくなる園庭づくりに取り組んだ。その結果、重点目標に掲げたことが100%達成できた。その要因としては、「どのような園庭にしたいか」「子どもたちにとって魅力的な園庭とはどのようなものか」「子どもたちの遊びが継続されるために必要なことは何か」を考え、全職員での取り組んだことが達成に繋がったと考えられる。こうした一連の取組を検証し、今年度に向けて、今後取り組みたい課題であるすくわくプログラムの取組を融合させながら継続させていく取組に発展させている。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった</li> </ul>
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</li> <li><input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</li> <li><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

公開保育への取組を通して、自園の保育の質の向上を目指し、自ら遊びたくなる園庭づくりに取り組み、目標の100%達成したことは大きな成果といえる。「どのような園庭にしたいか」「子どもたちにとって魅力的な園庭とはどのようなものか」「子どもたちの遊びが継続されるために必要なことは何か」を具体的に考えることで魅力のある園庭を目指し、園内研修の時間も使いながら園全体で取組を進めている。この取り組みから職員間のチームワークの向上や連携強化に繋がるという副次的効果についても評価したい。今後も課題を抽出し、具体的な目標を設定して取り組んでいくことに期待している。

**評価項目2**

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

**前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)**

「発達過程に応じ、乳幼児にふさわしい体験をさせる」「子どもの生活が豊かになるように保育内容を組織的、計画的に構成する」ことを重要課題として捉え、昨年度の重点目標に「保育のねらいや子どもの育ちを保育園と保護者で共有する」ことを掲げた。目標達成における重点施策として実りある保護者会開催に取り組んだ。  
その結果、重点目標に掲げたことが100%達成できた。その要因としては、各クラス趣向を凝らした保護者会を計画、開催したことが上手く機能し、達成に繋がったことと考えられる。  
こうした一連の取組を検証し、今年度に向けて、昨年度の継続とともに、行きたいと思える保護者会、来てよかったと思える保護者会の開催に発展させている。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった</li> </ul>
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</li> <li><input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</li> <li><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>

**評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評**

園は、昨年度の重点目標に「保育のねらいや子どもの育ちを保育園と保護者で共有する」ことを掲げ実りある保護者会開催に取り組んでいる。当園は、各クラスの年間目標とともに、クラスが一年間大切にしたいことをスローガンにし、子どもの育ちや保育の内容などが保護者にも理解されるように、保護者にも伝わる優しい言葉で考え共有できるようにしている。保護者会では、各クラスが工夫を凝らしており保護者への園理解や高い満足度に繋がっている。今年度も保護者の保育理解を図る大切な機会として保護者会を活用し、行きたいと思える保護者会、来てよかったと思える保護者会の開催に大きな期待がもてる。

## Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ1の講評		
<p>保育園の情報は区のホームページやリーフレットなど、様々な方法で提供している</p> <p>園の概要は、時間を問わず閲覧できる大田区ホームページに掲載している。園独自の地域向け情報誌や地域園合同子育て支援イベント情報誌は、図書館や児童館、嘱託医等の窓口に設置してもらったりなど、近隣の関係機関などに園の情報を提供している。また、入園申し込みのしおりを保育園門外の設置箱に設置し、自由に手に取れるようにしている。重要事項説明書は英語版・中国語版を用意し外国籍などを考慮している。その他の国籍の方には翻訳機を使用したり、イラストやジェスチャーで視覚的に伝えたりしている。</p> <p>見学会を開催し、園の特徴を丁寧に伝えている</p> <p>利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合に備えて見学会を設けている他、日程が合わない方へは個別に対応を行っている。見学会では、子育て支援プロジェクトチームが司会進行をすることで、保育現場での具体的な子どもの様子や保育士との関わりなどを具体的に伝えている。また、見学会では保育園の保育理念、保育方針、園目標などの他に、子どもが主体的に遊べるような園庭遊びの取り組みや、異年齢児の関わりが多く家庭的な雰囲気であることなど、自園の特徴を伝えている。</p>		

サブカテゴリー2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得ようとしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリー2の講評		
<p>入園前オリエンテーションを行い園生活に必要な重要事項について説明している</p> <p>園は入園前にオリエンテーションを開催している。新入園児面接用パワーポイントを使用し、重要事項説明書に沿って園の基本的ルールや重要事項について保護者にわかりやすく説明している。オリエンテーションでは説明した項目ごとに内容の確認と質疑応答の時間を設けている。重要事項説明後には「区立保育園重要事項説明等に関する同意書」にサインを貰い、同意の確認を行っている。重要事項説明書に変更が生じた場合には保育アプリから配信を行い、年度当初の保護者会で説明し保護者の周知を図っている。</p> <p>個別面接で子どもや家庭の状況を丁寧に把握し個々に応じた保育に繋げている</p> <p>園は入園にあたり、安心して保育園生活を送ることができるようオリエンテーションで詳しい説明を行うと共に個別面接を行って子どもや家庭の状況を把握している。事前に「児童調査票」「調査票」「保育園給食食材摂取確認表」を保護者に配付し、記入して貰ったものをもとに子どもの出産歴、健康状態、食事や睡眠、発達の状況、養育の様子などを丁寧に聞き取り、把握、記録し個別の保育配慮に繋げている。面接で得た情報は全職員に報告を行うことで共有し入園後の保育に反映させている。</p> <p>環境変化に伴う保護者や子どもの不安に考慮した支援を行っている</p> <p>園は環境の変化に伴う子どもの不安な気持ちを考慮し保護者の就労状況にも合わせながら慣れ保育を行っている。食事や水分が取れているか、泣いていても遊びに目が向いているか、安心して過ごす時間があるかなど子どもの様子に合わせて保護者と相談しながら進め、子どもの不安の軽減を図っている。転園の際には保護者の了承を得て転園先に情報資料の提供や引継ぎを行っている。卒園時には就学先に保育所児童保育要録を送付することや保護者の要望や必要に応じて就学支援シートを作成するなど子どもの育ちの継続を図っている。</p>		

サブカテゴリー3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 13/13
<b>評価項目1</b> 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
<b>評価項目2</b> 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたくうえで、必要に応じて見直ししている	○非該当
<b>評価項目3</b> 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当
<b>評価項目4</b> 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当
サブカテゴリー3の講評		
<p>子どもの心身や生活、家庭の状況について把握記録し定期的に見直ししている</p> <p>園は児童票や児童調査表を用いて子どもの心身状況や発達の様子、生活状況を記録している。出欠管理については保育アプリや電話連絡で確認し、確認した内容は全園児名簿に記載して把握、記録している。個人面談を行って、園と家庭での様子や保護者の意向などの確認を行い個人面談記録に記載している。1～3歳未満の子どもは3カ月ごとに、3歳以上の子どもは期ごとに担任が児童票に子どもの成長や発達について記録している。記録は園長が一定期間ごとに内容を確認し、必要に応じて追記を促すなどで子どもの成長過程を記録している。</p> <p>年間指導計画をもとに月案、週案と細分化し子どもの姿に応じた保育に繋げている</p> <p>年間指導計画をもとに各クラス担任が子どもの姿や状況に合わせて月案、週案、活動案を作成している。年間指導計画は3カ月ごとに振り返りを行い、月案は月ごと、週案は週ごと、活動案はその日ごとに、計画や目標の達成度、子どもの姿や反応の様子、保育の成果、保育士の働きかけや準備などについて振り返りを行い次の計画に反映させている。1～3歳未満の子どもは個別月案を作成して個々に応じた丁寧な保育に繋げている。特別に配慮を要する子どもには期ごとに個別の計画をたて保護者と共有して成長や課題の確認を行っている。</p> <p>子どもや家庭の様子を職員間で共有する仕組みを整え話し合う機会を大切にしている</p> <p>保護者より得た情報は各クラス連絡表に記載して昼礼や職員会議で全体周知を図っている。職員会議に出席していない職員も共有できるように議事録を確認したらチェックする仕組みを整えている。全職員に周知が必要なことは、昼礼ノートに記入することを徹底し職員は昼礼ノートの確認を習慣化している。今年度は年間で3回の園内研修日を設け、保育や悩みについての話し合いを行っている。事例を持ち寄ったグループ討議を行うことで話し合うことを大切に、子どもの思いと行動に視点を置くことで子どもを理解する意味を学んでいる。</p>		

サブカテゴリ-5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
サブカテゴリ-5の講評		
<p>個人情報の取り扱いルールを定め、子どものプライバシーに配慮して保育を行っている</p> <p>個人情報の利用目的については保護者に説明を行い、取り扱いについての同意を確認している。個人情報に関するものは持ち出し管理簿にて管理し、日時、使用者、許可者、返却時間、返却確認者を記入して管理を徹底している。子どものプライバシーや羞恥心に対する配慮として3～5歳児クラスでは、身体測定や着替えを男女別に行いカーテンや衝立でまわりから見えないようにしている。おむつ交換は外部から見えない場所で一人ずつ行っている。体の仕組みやプライベートゾーンの話健康教育で行いプライバシーを守る大切さを子どもたちに伝えている。</p> <p>子ども一人一人を大切に保育に園全体で取り組んでいる</p> <p>園は入園前の面接で子どもの様子や発達、保護者が子育てで大切にしていることについて丁寧に聞き取り個を大切に保育に取り組んでいる。子どもの姿を共有し家庭と園で生活リズムを作っていくことを大切にしている。年度の初めには職員全員で「大田区安全保育マニュアル」「こころを育てる大田の保育」「職員の服務」の読み合わせを行い職員皆で大切にしたいことを確認している。「保育所、認定こども園における人権擁護のセルフチェックリスト」にて自分の保育を振り返り結果を統計にして職員間で共有し一人一人を尊重する保育に繋げている。</p> <p>虐待防止や虐待に対する理解を深め対応する仕組みを整えている</p> <p>虐待防止や虐待に対する理解を深めるため、職員が研修に参加し、職員会議で報告を行って情報を共有し、園全体の学びに繋げている。虐待対応マニュアル、虐待に気づくためのチェックリストを整え、全職員で確認することで園の対応体制を整えている。対応フローチャートを用いて虐待が疑われるときの通報、通告の仕組みをわかりやすく示し、子どもの安全を図るための迅速な対応、組織として対応する仕組みの周知を図っている。今後に向け、虐待の事例がないため発見時のシミュレーションを職員全員で行い園の対応能力の強化に繋がりたいと考えている。</p>		

サブカテゴリ-6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
サブカテゴリ-6の講評		
<p>適切な行動ができるよう職員は各種マニュアルを理解し、遵守しながら保育を行っている</p> <p>園では、大田区共通マニュアルを含め、保育、職員、災害、安全管理、保護者などに分けて「富士見橋保育園マニュアル」を作成し、職員一人一人に配布して活用している。「富士見橋保育園マニュアル」の他、行事や保護者会関係、プロジェクト等に分けてファイルし、業務の標準化を図っている。保育に関する手引きを全職員に配布し、使用したいときにすぐに活用できるようにしている。共有マニュアルや行政で統一されている事項は事務所に置き閲覧できるようにしている。</p> <p>職員や保護者からの意見を反映しながら、業務の標準化に取り組んでいる</p> <p>日々の保護者とのコミュニケーションや保護者会、保育参観、運動会などの保護者アンケートや意見をもとに、改善すべき内容を職員間で共有しながら、業務の標準化に取り組んでいる。職員からの意見や提案については、クラス職員の意見を持ち寄り各クラスのリーダーが集まってリーダー会を行って収集し業務改善につなげている。年度末、又は年度当初に業務状況や手順を確認し、必要に応じて内容の変更を行っている。</p>		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリ4	
		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	36/36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている			
		評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけができるよう、環境を工夫している		○非該当
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している		○非該当
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている		○非該当
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している		○非該当
評価項目1の講評			
<p>子どもの興味や関心に合わせた遊具、環境を用意し主体的な遊びを保障している</p> <p>人と物との出会いの中で芽生える感情や考え、多様な体験の過程を保育士が見守り、受け止めることによって、子どもが主体的に遊び、学び、自己肯定感が育っていくことを園は大切にしている。子どもの興味や関心、発達、季節、行事などに合わせた様々な遊具を用意し、子どもが主体的に手に取り遊べるよう環境を整えている。サマーフェスティバルでは何をするかを子どもたちが考え、子どものアイデアをもとに大人も子どもも試行錯誤を繰り返して取り組み、作り上げる楽しさ、満足感を共感すると共に、園全体で楽しむ遊びへと発展させている。</p> <p>様々な子どもが関わり合い共に育っていくことで互いを尊重する心を育んでいる</p> <p>3～5歳児クラスでは、「なかよしディ」と名付けた縦割り活動を月に1回設け、9つのグループで活動したり過ごしたりする中で小さい子どもへのいたわりの気持ちや、大きい子どもへのあこがれが持てるよう異年齢での交流を行っている。誕生日会では、子ども同士がお互いの良いところや素敵なところを言葉にして認め合う機会を作っている。特別に配慮を要する子どもが他の子どもと一緒に心地よく生活できるよう子どもの姿や保育士の関わりを記録し、特性に応じた環境や活動への取組を援助することで、「できた」経験を持つことを大切にしている。</p> <p>個々の育ちを大切に年齢や発達に合わせた保育に取り組んでいる</p> <p>発達の過程で生じる子ども同士のトラブルを人との関わりを学ぶ大切な経験とし、子どもの気持ちを汲み取り言葉にして受け止めることを大切に年齢に合わせた対応を行っている。保護者には今日あった出来事として子どもが経験したことを伝えるようにしている。5歳児は地域保育施設や図書館との交流機会を設け、自園の仲間だけでなく地域の人や友だちの存在を知り、いろいろな人や友だちと関わって遊ぶことで就学への期待に繋げている。また小学校と連携を取り、近隣小学校の1年生の授業を見学させてもらうなどで就学に対する興味関心を育んでいる。</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当
評価項目2の講評		
<p>園と家庭で子どもの様子を伝え合い生活の安定を図っている</p> <p>1・2歳児は連絡帳を使用して機嫌・体温・受診や薬の服用の有無・睡眠・排便・食事などの情報や家庭での様子を確認している。特に前日に体調不良や怪我で欠席している場合には口頭で詳細を確認し子どもの安全を図っている。3～5歳児クラスは視診で健康観察を行い、口頭でも健康状態や家庭での様子を確認し、クラス連絡表に記入して一日の生活配慮に繋げている。園での様子を1・2歳児クラスは連絡帳、3～5歳児クラスは保育活動表に記載して保護者に知らせ、エピソードや姿を口頭で伝えることで子どもの様子が共有できるようにしている。</p> <p>家庭と連携し子どもの発達に応じて基本的な生活習慣が身につくよう働きかけている</p> <p>保護者会ではパワーポイントを使用して年齢や子どもの発達に合わせて基本的な生活習慣が身につく大切さを保護者に知らせている。個人面談や日々の遣り取りを通して子どもの様子を伝え合い、家庭の様子も大切にしながら、食具の持ち方や排尿感覚など具体的な情報を共有し、保育園と家庭と一緒に進めていけるようにしている。「すくすくパワーえいようだより」「健やか子育てだより」を毎月配信し、食事や健康に関する情報を保護者に伝えている。健康教育や食育活動を年齢に合わせて計画的に実施し、基本的な生活習慣の大切さを子どもたちに伝えている。</p> <p>個々に応じて午睡や休息時間を配慮し子どもの生活リズムを整えている</p> <p>1・2歳児クラスは連絡帳を使用して子どもの生活を24時間として把握し、その日の状況により早く眠くなったり、早く目覚めたり、眠れないなどの子どもの様子に応じて個々に対応するよう努めている。夜早く寝ない、朝なかなか起きられないなどの家庭の声には、家庭の意向も聞きながら園の様子を伝え、子どもの生活リズムが整うよう家庭と一緒に考えるようにしている。5歳児クラスは年明けを目安に午睡を無くし就学に向けて午睡をしない生活に切り替えていけるようにしている。家庭にも働きかけ、子どもの生活リズムが整うようにしている。</p>		
3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
評価項目3の講評		
<p>遊びを通して様々な力が育つよう子ども自らが遊びを見つける環境作りに取り組んでいる</p> <p>園は子どもが自発的に遊ぶ中で、イメージする「想像力」、じっくり取り組む「集中力」、考える「思考力」、自分で決める「判断力」、健康で丈夫な体を作る「体力」が育つと考えている。自ら判断して行動できる能力を育むことが、意欲や達成感に繋がっていくと考え「自ら遊びたくなる園庭」をテーマにした取組を行っている。子どもが自分で遊びを見つけ、行動する環境について討議を重ね、砂場の拡張や雑草のある園庭、遊具の充実に取り組む中で子どもの遊びの変化に気づき、環境の在り方の考察や更なる環境作りへと繋げている。</p> <p>子どもが感じたこと、考えたことを様々な表現することを大切にしている</p> <p>子どもが自分の思いや要求を言葉で表現できるよう、子どもの表情や身振り、姿や声に耳を傾け、応答的な遣り取りが十分できるよう関わっている。子どもが日々の生活の中で見たこと、感じたことを動きや言葉で表現したり、自由に描いたり作ったり、模倣したりして遊ぶ中で自己表現を楽しみ豊かな感性や表現する力、創造性が育つことを大切にしている。発達や興味に合わせて様々な素材や用具を用意し表現を楽しむ環境を整えている。子どもがイメージを共有して取り組むことで互いを認め合い友だちと一緒に取り組む楽しさを味わう姿を大切にしている。</p> <p>戸外・園外活動を通して子どもが自然や季節を感じられるようにしている</p> <p>園は周囲にある様々な環境に子どもが好奇心や探求心を持って関わることや体を動かすことで、体力の向上や運動機能の発達を促すことを目的に園庭遊びや戸外活動を行っている。季節の栽培物や飼育物を育て自然を身近に感じられるようにし、遊びを通して視覚や聴覚、嗅覚、触覚、味覚など全身の感覚が養われるようにしている。砂や水を使って子どもが様々な遊びを展開し、試したり工夫したりして遊びこむ姿を大切にしている。子どもの走りたい要求が満たされるよう広場への散歩や自然豊かな公園に出かけ、四季折々の自然に触れられるようにしている。</p>		

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>季節や時期に応じて様々な行事を計画し、いろいろな経験が持てるようにしている</p> <p>園は季節や時期に合わせて日本の伝承行事や子ども発想で取り組む行事、保護者参加の行事、防災や安全に関する行事、園外保育など様々な行事を行い、子どもが多様な経験を持ち豊かに育つよう年間で計画を立て取り組んでいる。季節の伝承行事では年齢に合わせて行事の由来をわかりやすく伝え、制作活動を取り入れて子どもが興味関心を持ち楽しい経験となるようにしている。子どもの姿や遊びの様子を捉え、子どもたちが主体的に楽しく取り組めるよう内容ややり方を工夫し、子どもがやりたいと思っていることを大切に、行事を組み立てている。</p> <p>行事への取組を通してやり遂げた達成感や皆で取り組む楽しさを味わっている</p> <p>園は子どもが考えたり工夫したりアイデアを出し合ったり、皆で協力したりすることを大切に集団活動を保育計画の中に位置づけている。5歳児クラスはサマーフェスティバルへの取組の中で何をやりたいか意見を出し合い5店舗のお店作りを行った。子どもがイメージを持ちやりたいと思っていることを再現できるよう大人も一緒にアイデアを出し合って試行錯誤を重ね、車を走らすゲーム屋さんでは皆で知恵を出し合う豊かさを経験している。皆で取り組む楽しさや達成感を味わったこの遊びは人と関わり何かを成し遂げる大切な経験となっている。</p> <p>行事のねらいや内容、取組の様子を保護者に伝え理解や協力を図っている</p> <p>年度当初に年間行事予定表を保護者に配布しそれぞれの行事のねらいや内容を伝えている。保護者会やクラスだよりで取組の状況や当日を迎えるまでの過程について写真を交えてわかりやすく伝えることに努めている。クラスだよりやドキュメンテーションでは、行事への取組みの中で見られる子どもの気持ちの変化や様子、友だちを思いやり協力する姿など、子どもが育っていく様子を丁寧に伝えることで保護者の理解や協力が得られるようにしている。運動会は案内状とともに見どころを配布し、終了後には保護者アンケートを行って次年度に繋げている。</p>		
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>保育時間の長い子どもの心身の状況に配慮し安心して過ごせるようにしている</p> <p>園は全体的な計画の中に、子どもの生活リズムや心身の状態に十分留意し一日の疲れや保護者を待つ気持ちをあたたかく受け止めていくこと、家庭と連携し子どもの情報を伝達し合い子どもが不安なく過ごせるようにしていくことを長時間保育の配慮事項として記している。朝・夕保育は日中の子どもの様子がわかる職員が担当できるよう体制を整え、延長保育担当職員を固定することで子どもが安心して過ごせるようにしている。担任から引き継いだ日中の子どもの様子や、夕保育の時間での様子も保護者に伝えられるようにし、子どもや保護者の安心に繋げている。</p> <p>合同保育の時間帯でも子どもがくつろいで自分の好きな遊びが楽しめるようにしている</p> <p>朝・夕保育専用の遊具を用意し、子どもが楽しみにできるようにしている。遊びの継続については申し送りをし、子どもと一緒に相談し考えるようにしている。一人遊びや自分の遊びが楽しめるスペースを作り、疲れが出る時間帯を考慮して静かな遊びができる環境を整えている。子どもの心情や状況に合わせて甘えを受け入れることや横になれるスペースを作り、子どもが安心してゆったり過ごせるようにしている。合同保育の時間帯では異年齢での関わり合いと一緒に遊ぶ姿を大切にしながら、安全に過ごせる遊びの内容や遊具などに配慮している。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作り配慮している		○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている		○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している		○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている		○非該当
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている		○非該当
評価項目6の講評			
<p>子どもが落ち着いて食事が楽しめるように環境やメニューなどを工夫している</p> <p>子どもが落ち着いた環境で食事が楽しめるよう席を固定し3～5歳児は皆が揃ってから食事を開始し、大人も一緒に食べることでみんな食べる楽しさが感じられるようにしている。栄養士、調理師が子どもの様子を見て声をかけ、旬の食材を見たり触れたりする機会を設けることで子どもの食べる意欲に繋げている。「大森のリナムル」「馬込ピクルス」「池上梅園からあげ」など大田区に因んだメニューを取り入れ、行事の日には行事に因んだ献立を作成している。年度末には5歳児が選んだリクエストメニューを企画するなど食を楽しむ工夫をしている。</p> <p>様々な食育に取り組み子どもの食に対する興味、関心を育んでいる</p> <p>3～5歳児クラスは季節の野菜を栽培し収穫体験を行っている。収穫したものは調理師に調理して貰い給食で食べる経験をしている。4歳児クラスは赤紫蘇を栽培して2回収穫し、紫蘇ジュースを作って貰ったり、ふりかけにして貰ったりなど様々な調理方法を知り、食の楽しさを体験している。サンプルケースを使用して給食の展示を行い親子の食に関する会話に繋げている。おすすめメニューのレシピを玄関ホールに置いて自由に持ち帰れるようにし、家庭の食育にも反映できるようにしている。</p> <p>子どもの状況や体調に配慮し安全に食事を提供するための仕組みを整えている</p> <p>園は子どもが楽しく食べ豊かな食体験を持つことを大切に、自園調理の安全な給食提供を行っている。食物アレルギーのある子どもに対しては「大田区保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」に基づき医師作成による「保育所におけるアレルギー疾患生活管理指導表」をもとに完全除去を基本とした対応を行っている。毎月、保護者、園長、栄養士、調理師、担任とアレルギー面談を実施し、献立確認を行っている。宗教上や個別の事情で対応が必要な場合は保護者に「大田区保育園給食に関する配慮のお願い」を提出して貰い対応する仕組みを整えている。</p>			
7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している		○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている		○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている		○非該当
評価項目7の講評			
<p>子どもが自分の健康や安全について学ぶ機会を作っている</p> <p>園は年間保健計画を作成し感染症予防、事故発生防止、家庭との連携のもと子どもの健やかな成長発達を促すことを年間目標として様々な取組を行っている。1歳児支援看護師による健康教育では、鼻のかみ方や目の話、視力検査などを行って子どもが自分の体を意識することや健康に必要な習慣などを年齢に合わせて伝えている。交通安全教室や防犯訓練に参加し、体験を通して学べるよう取り組んでいる。幼児期運動指導(運動遊び指導)リーダー保育者養成研修会で学んだ運動遊びを各年齢で取り入れ様々に身体を使って遊び心身の発達に繋げている。</p> <p>個々の子どもの状況を把握し、医師との連携のもと対応体制を整えている</p> <p>保育所の生活において、特別な配慮や管理が必要な子どもには医師の診断による指示書のもと、薬の預かりや個別の対応を行っている。与薬が必要な子どもや緊急薬の預かりが必要な子どもには与薬依頼書を使用して対応について確認し、子どもの健康、安全を図っている。アレルギーのある子どもには医師が記載した「保育所におけるアレルギー疾患生活管理指導表」の提出を保護者に依頼し、安全な給食の提供を行っている。看護師による熱性けいれん対応訓練を行って職員の知識向上を図り、実施訓練を行うことで緊急時の対応力に繋げている。</p> <p>保護者と情報を共有し、連携して子どもの健康維持が図れるようにしている</p> <p>感染症が発生した際には保育アプリで感染症情報の配信及び園内掲示を行い、保護者と共に予防、拡大防止に努めている。SIDS予防のためクラス午睡にはマットを使用し睡眠チェック表を用いて睡眠時の安全を図っている。1・2歳児は10分毎、3～5歳児は30分毎に様子や呼吸を確認し、仰向けの姿勢で寝られるようにしている。家庭にもうつ伏せではなく仰向け寝を推奨している。区役所より配信される「健やか子育てだより」では健康や保健についての情報を季節や時期に応じてタイムリーに発信し、子どもの健康が維持できるようにしている。</p>			

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当	
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当	
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当	
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当	
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当	
評価項目8の講評			
<p>保護者の思いや個別の事情に寄り添い安心して子育てできるよう支援している</p> <p>保護者が安心して子育てできるよう園は個別の事情を考慮した柔軟な対応に努めている。保護者の事情に合わせて登園時間や土曜日登園など柔軟な対応を図り、プライバシーに関することについては園長が話や要望を聞くことで様々な配慮に繋げている。保護者の悩みや困り感に寄り添い、傾聴に努めながら、保護者が安心して子育てや育児ができるよう手立てや解決策を提案している。子どもの発達について悩んでいる保護者には、保育園での様子を伝え必要に応じて心理士など専門家による巡回相談を勧めて子育てが支えられるようにしている。</p> <p>保護者同士の関わりや職員との信頼関係作りを大切にしている</p> <p>園は保護者会を保護者同士が交流できる貴重な機会と考えている。懇談会やフリートークの時間を設けて、保護者同士に必要な情報を得ることや、子育ての悩みや問題を気軽に話せることができ、保護者同士の絆を深める場となるように設定している。職員と保護者の信頼関係の構築が子育ての安心に繋がることを鑑み、日々の連絡帳を通じての遣り取りや登降園時の会話を大切にしている。子どものかわいい姿や成長の様子を保護者と共感しながら、一緒に子育てしているというスタンスを大切にしている。</p> <p>保育参観や個人面談を行い、保護者の子ども理解や養育力向上に繋げている</p> <p>園は1歳児クラスを対象に保育参観を行い子どもの園での様子を見てもらうことで園生活を知り安心して預けられるようにしている。2～5歳児クラスは保育参加を行っている。午前中の活動に参加してもらい、子どもと一緒に園生活を体験する中で我が子の様子や園の様子を知ることによって保護者には保育のねらいやポイントを伝え、参観・参加後に面談を行って保育で大切にしていることや子どもの成長の様子を伝えている。実際に保育を体験することや子どもの様子を伝え合うことを通して子ども理解を深め保護者の養育力向上に繋げている。</p>			
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当	
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の方の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当	
評価項目9の講評			
<p>地域の中で子どもが園ではできない体験が持てるようにしている</p> <p>地域の図書館のお話会に5歳児が月に1回参加しお話を楽しむと共に公共の場を経験している。就学に備えて近隣小学校の授業を見たり、施設を見学したり一年生と交流する機会を持ち就学にあこがれや期待感が持てるようにしている。通学路を歩いてみたり、学校のまわりを歩いたりなど地域を知ることにも取り組んでいる。散歩に出かける際は、地域の人や散歩先であった他園の子ども、職員に積極的に挨拶を交わすことで社会性に繋げている。廊下の掲示板にお散歩マップを掲示し園で遊びに行く公園を保護者にも確認してもらい、地域の大切さを伝えている。</p> <p>地域の様々な人とのふれあいを通して社会性が育まれるようにしている</p> <p>園は様々な人との交流や出会いにより社会性を育て、住んでいる地域に対する理解を深めながら、自分たちが生活している場として親しみを感じることが大切と考えている。中学生の職場体験やボランティアを受け入れ子どもたちと関わってもらったり、近隣の高校が「おもちゃの病院」のお知らせを毎月届けてくれたりしている。子どもが様々な人と出会い関わること、地域にはいろいろな人がいることを知り社会を知っていくことはとても大切なことである。今ある関わりを土台とし子どもが地域の中で豊かに育つよう取り組まれることに期待したい。</p>			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル①	保護者会を保護者の保育理解を図る大切な機会とし様々な工夫をしている	
内容①	園は保護者会を「とも育て」や保育理解に繋がる大切な機会として捉え、保育場を切り取ったパワーポイントと説明文書を作成し誰もが同様に伝えられるよう年間保育説明の準備を皆でしっかり行っている。各クラスのパワーポイントを職員同士で見合うことで全職員の内容周知を図り職員の質の向上に繋げている。育てて欲しい姿や保護者の関わりを各家庭に花にして表現してもらったり、子どもたちへのメッセージを日めくりカレンダーにして使用したりなど各クラスが工夫して見える化を図ることが園理解や保護者の高い満足度に繋がっている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-3-2	全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している
タイトル②	クラスが一年間大切にしたいことをスローガンにしクラス目標と共に掲示している	
内容②	園は各クラスが一年間大切にしたいことをスローガンにして保育室前に掲げている。年齢にあった保育、子どもの気持ちに寄り添った保育の提供ができるよう、スローガンは毎年担任同士が自分たちの思いを出し合い、端的な言葉で表現できるよう考えている。年間目標と共に子どもの育ちや保育の内容などが保護者にも理解されるように、保護者にも伝わる優しい言葉で考え共有できるようにしている。各保育室前に年間目標と共にカラーで目につきやすく掲示することで常に目に触れるようにし、クラス保育を語るものになっている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目		
タイトル③		
内容③		

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	保育士同士、保育を語り合うことで多様な視点の大切さに気付き、明日の保育に繋げることや子ども理解の意味を学ぶことに取り組んでいる
	内容	園は年間3回園内研修日を設け、どんなことを話し合いたい、どんなことを学びたいかのアンケートを取り職員が主体的に取り組むことを大切にしている。事例を持ち寄ったグループ討議を行うことで様々な視点があることを知り、多様な視点の大切さを学んでいる。困っていることや悩みなどが話せることで保育のヒントが得られる機会となるようにしている。子どもは一人一人違い、同じ対応にはならないが、自らの学びが子ども理解に繋がると明日の保育に繋がるよう語りあうことを大切に職員から出たすべての事例に取り組むことを予定している。
2	タイトル	子どもが主体的に遊ぶ園庭環境作りプロジェクトに取り組み、子どもの姿を通して考察することが園の質の向上に繋がっている
	内容	園は「自ら遊びたくなる園庭」をテーマに園庭環境作りに取り組む子どもが自発的に遊びを見つけ遊び込むことを大切に環境作りを行っている。砂・遊具・園芸に特化した3つの部を作成し、職員が子どもの姿を通して考察し、環境を変化させていくことに取り組んでいる。子どもが砂山を作り水を流してとことん遊べるよう、砂場の拡張を行っている。大人の手を要する遊具設定ではなく、子どもが自由に出し入れできる環境や雑草で遊べる環境を作るなど常に子どもの姿から学び環境を考察することで遊びの充実を図り保育の質の向上へと繋がっている。
3	タイトル	ベテラン職員も若手職員も、お互いを受け止められる、風通しの良い組織風土が醸成されている
	内容	園では保育で気が付いたことは、経験年数関係なく声に出して言い合える組織を目指している。その中で、OJTを人材育成の中心に位置づけ、経験年数の長い職員は若手職員の保育活動をフォローするなど、職員間の意思疎通を図り、各職員が協働意識をもって連携して保育に従事することを推進している。職員一人一人の自己評価では、チームワークや人間関係の良さ等も高い評価となっている。プロジェクト活動や園内研修など、職員主体の取組も多く、良好なチームワークのもとで質を高め続けられる組織になっている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	現状のリスクマネジメント体制に加えて、ヒヤリハットを用いた優先順位の分析など、より一層の取組に期待したい
	内容	園の安心・安全面の強化については、マニュアルなどを整備し、毎月の避難訓練や防災訓練、不審者対応訓練などを行っている。また、事故や怪我報告書を活用し、その都度発生原因を分析して改善策及び再発防止の取組を検討している。どのリスクも重要ではあるが対策には時間もお金もかかるものもある。そのため、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけていくリスクマネジメントは重要である。想定されるリスクを洗い出し、ヒヤリハットを用いた優先順位の分析など、リスクを適正、円滑に管理するより一層の取組に期待したい。
2	タイトル	長期構想に基づいた期限付きかつ定量的な目標を掲げることでPDCAサイクルの有効性を一層高めていくことが期待される
	内容	園では、理念や方針の具現化に向けて、長期的な課題や目標の達成を目指し、中長期計画を策定した上で園運営に取り組んでいる。また、園の目指す姿を明確にし、園全体の方針として年度当初に年間事業計画書を作成し、各課題に対する具体的な目標を設定して実行している。今後はさらに、長期構想に基づいた期限付きかつ定量的な目標を掲げることで、事業所が抱える重要課題に対する組織的な取り組みの達成度を評価・分析し、必要に応じた見直しを行いながら、PDCAサイクルの有効性を一層高めていくことが期待される。
3	タイトル	地域の中で子どもが多様な経験を持ち育っていく大切さを鑑み、園の持つ地域との交流を土台とした更なる地域資源の活用に期待したい
	内容	園は環境の見直しを行い、子どもの育ちと環境について考察を重ね、園庭遊びの充実を図っている。様々な人との交流や出会いによって社会性が育まれると考え地域に親しみが持てる機会を作っている。一方で散歩の少なさが保護者の声から聞かれており園も地域資源を活用する機会を増やすことを課題としている。未来を生きる子どもにとって地域を知り、社会を知り自分もその一員として育っていくことはとても大切なことである。散歩の意味を問い、子どもにとって何が必要かを考察し、地域の中で多様な経験を持ち育つための工夫、園の取組に期待したい。